

作成日：2014年04月10日

改訂日：2022年05月24日

安 全 デ ー タ シ ー ト

1. 製品及び会社情報

製品の名称：ショーボンド NS400促進剤
 会社名：ショーボンドマテリアル株式会社
 住所：埼玉県川越市芳野台2-8-10
 担当部門：品質保証課
 電話番号：049(225)5611 F A X：049(225)5616
 緊急連絡先：品質保証課 電話番号：049(225)5611
 整理番号：NS400促進剤-07

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性：	引火性液体	区分3
健康に対する有害性：	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	区分1
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分2
	生殖毒性	区分1B
	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分2
	標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分2
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性：	水生環境有害性 短期(急性)	区分2
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分3

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル：



注意喚起語： 危険

危険有害性情報： H226 引火性液体および蒸気
 H334 吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ
 H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
 H351 発がんのおそれの疑い
 H360 生殖能または胎児への悪影響のおそれ
 H371 臓器の障害のおそれ
 H373 長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ

H401 水生生物に毒性

H412 長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

- 予防策: 熱／火花／裸火／高温のもの のような着火源から遠ざけること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 屋外または換気の良い場所で使用すること。
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 取り扱い後はよく手を洗うこと。
 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
 粉塵／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 環境への放出を避けること。
- 対 応: 火災の場合には、消火に粉末／炭酸ガス／泡消火器を使用すること。
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを
 着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けんで洗うこと。
 汚染された衣類は直ちに脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸のしやすい姿勢で
 休息させること。
 下記の場合は直ちに医師の診断／手当を受けて下さい。
 眼に入った場合、飲み込んだ場合、皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い場合、
 身体上の異常が生じた場合、暴露または暴露の懸念がある場合。
 漏出物を回収すること。
- 保 管: 容器を密閉し、換気の良い冷暗所で、施錠するなど関係者以外が
 立ち入れないような管理された場所で保管すること。
- 廃 棄: 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に、
 業務委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名又は一般名 (成 分)	化審法	CAS No.	濃度又は 濃度範囲 (含有量%)	P R T R 法	労働安全衛生法 通知物質57条2
オクチル酸コバルト	2-615	136-52-7	45-55	第1種No. 132	政令番号172 (0.1%以上)
ミネラルスピリット	9-1702	64742-81-0	35-45	該当なし	政令番号551 (1%以上)
キシレン	3-3	1330-20-7	2.5	第1種No. 80	政令番号136 (0.1%以上)
エチルベンゼン	3-28	100-41-4	0.4	該当なし	政令番号70 (0.1%以上)
1,3,5-トリメチルベンゼン	3-3427、3-7	108-67-8	1.5	第1種No. 297	政令番号404 (1%以上)
1,2,4-トリメチルベンゼン	3-3427、3-7	95-63-6	5.0	第1種No. 296	政令番号404 (1%以上)

4. 応急措置

- 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる
 場合は外し、その後も洗浄をつづけること。直ちに眼科医の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合: 布で素早く拭き取り、多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激、または、発疹が生じた場合は、医師の診断を受ける。

吸入した場合： 直ちに空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合： 直ちに水で口をすすぎ、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤： 粉末、炭酸ガス、泡。

使ってはならない消火剤： 冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

特有の消火方法： 可燃性のものを周囲から取り除く。
消火活動は風上から消火する。
高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却する。

消火を行う者の保護： 消火作業の際は、必ず耐熱性着衣などを着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項： 保護具及び緊急時措置：直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離すること。関係者以外の立ち入りを禁止すること。
作業者は適切な保護具（手袋、保護眼鏡等）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避けること。風上に留まること。低地から離れること。

環境に対する注意事項： 河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
大量の流出には盛り土などで囲って流出を防止する。

回収・中和： 土砂等（の不燃物）で囲みビニールシート等でおおい、蒸気の発生を抑えながら回収する。

封じ込み及び浄化の方法・機材： 拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は、ウェス等を使用して空容器に回収する。

二次災害の防止策： 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、火災の発生を防ぐ。
着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

技術的対策： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。

局所排気・全体換気： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なうこと。

安全な取扱い注意事項： 周辺で火気の使用、発生のないこと。
使用前にショーボンドマテリアルホームページ「樹脂製品の取り扱いについて」「樹脂製品を安全にご利用いただくために」を必ず参照すること。
ホームページアドレス：<https://www.sb-material.co.jp/resin/download.html>
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い区域のみで使用する。
取扱い後は、よく手を洗うこと。

接触回避： 「10.安定性及び反応性」を参照。

保管：

技術的対策： 保管場所には、危険物を貯蔵し取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設けること。

保管条件： 酸化剤、酸から離して保管する。
容器を密閉して換気の良いところで保管すること。
施錠して保管すること。

混触禁止物質： 「10. 安定性及び反応性」を参照。

容器包装材料： 金属製で密閉可能な容器。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

換気の悪い場所では局所排気装置等の排気のための装置を設置する。
電気機器は防爆構造とする。
取扱い場所の近くには、洗顔、身体洗浄のための設備を設ける。

許容濃度

管理濃度： 設定されていない。

許容濃度： 設定されていない。

保護具

呼吸器の保護具： 有機ガス用防毒マスク 送気マスク

手の保護具： 保護手袋

眼の保護具： 保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具： 化学薬品が浸透しにくい作業衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态、形状等： 液状
色： 紫色
臭い： 石油臭
沸点、初留点及び沸騰範囲： 162-192℃ (ミネラルスピリット)
引火点： 42℃ 以上
燃焼または爆発範囲： データなし
蒸気圧： データなし
比重： 0.9 (20℃代表値)
自然発火温度： データなし
その他情報： データなし

10. 安定性及び反応性

安定性： 通常の取り扱い条件下では安定である。
反応性： 知見なし。
避けるべき条件： 加熱、光、静電気の発生を防ぐ。
混触危険物質： 酸、アルカリにより分解する。
危険有害な分解生成物： 加熱分解による一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

製品の有害性情報

混合物の有害性情報： 全ての項目について情報なし

オクチル酸コバルトの有害性情報

急性毒性 (経口)： ・ラット LD50 1.22 g/kg (US HPV Challenge, RTECS)
急性毒性 (経皮)： ・モルモット LD50 >5 g/kg (US HPV Challenge, RTECS)
急性毒性 (吸入:ミスト)： ・ラット LC50(1hr) >10.0 mg/L (エアロゾル) (US HPV Challenge, RTECS)
皮膚腐食性／刺激性： ・情報なし
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性： ・情報なし
皮膚感作性： ・ドイツDFG MAK でSah(気道および皮膚感作性の危険がある)に分類されている(コバルト化合物)。
・当該物質に35年間暴露された男性は、パッチテストで塩化コバルトにアレルギー反応を示した。(HSDB)
呼吸器感作性： ・ドイツDFG MAK でSah(気道および皮膚感作性の危険がある)に分類されている(コバルト化合物)。
生殖細胞変異原性： ・サルモネラ菌を用いた復帰突然変異試験で陰性であった。(USHPV Challenge)
・大腸菌を用いたDNA修復試験で陰性であった。(US HPV Challenge)
・マウスに経口投与し、骨髄細胞を観察したin vivo 小核試験で陰性であった。(US HPV Challenge)

発がん性：IARC の発がん性分類：(コバルト化合物) グループ2B(作用因子はヒト発がん性の可能性がある)

生殖毒性：・情報なし

特定標的臓器毒性

(単回ばく露)：・情報なし

特定標的臓器毒性

(反復ばく露)：・情報なし

誤えん有害性：・情報なし

ミネラルスピリットの有害性情報

急性毒性(経口)：・ラット LD50 >5000mg/kg (IUCLID、MSDS-OHS)

急性毒性(経皮)：・ウサギ LD50 >2000mg/kg (IUCLID)、>3160mg/kg (MSDSOHS)

急性毒性(吸入：蒸気)：・ラット LC50 (4hr) >5.2mg/L (IUCLID)

皮膚腐食性／刺激性：・ウサギを用いたドレイズ試験で、PII は4.4～8.0 で皮膚刺激がみられた。(IUCLID)

・ウサギを用いた皮膚刺激性試験で、わずかに皮膚刺激がみられた。(IUCLID)

・急性暴露により軽度から中等度の皮膚刺激を起こすことがある。(MSDS-OHS)

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：・ウサギを用いたドレイズ試験でわずかに眼刺激性がみられた。(IUCLID)

・急性暴露により軽度から中等度の眼刺激を起こすことがある。(MSDS-OHS)

皮膚感作性：・モルモットを用いた皮膚感作性試験で感作性はみられなかった。

(IUCLID)

呼吸器感作性：・情報なし

生殖細胞変異原性：・サルモネラ菌を用いたエームス試験、マウスリンパ腫細胞を用いたin vitro 前進突然変異試験、CHO 細胞を用いたin vitro 姉妹染色分体交換試験で陰性であった。(IUCLID)

・マウスのin vivo 染色体異常試験で陰性、in vivo 姉妹染色分体交換試験で陽性であった。(IUCLID)

発がん性：・ACGIH の発がん性評価：A3(動物に対して発がん性が確認された物質であるが、ヒトへの関連性は不明)

・マウスに24 ケ月間経皮投与したGLP 試験で、乳頭腫や皮膚がんがみられた。(IUCLID、CCRIS)

生殖毒性：・雌雄ラットに雄で8 週間、雌で交配前から分娩後4 日目までの7 週間経皮投与した生殖発生毒性試験で、親動物に対する毒性や生殖発生毒性はみられなかった。(IUCLID)

・雌ラットに10 日間に吸入暴露したGLP 試験で、親動物に有害な影響はみられず、胎児の生育と発達等にも影響はみられなかった。(IUCLID)

特定標的臓器毒性

(単回ばく露)

：・C7～C12 の石油炭化水素類は、粘膜刺激、めまい、協調運動失調、眠気、振戦および麻酔性の意識混濁等を起こすことがある。過剰の急性暴露によって、中枢神経系の抑制を結果として起こすことがある。いくつかの炭化水素類では、一時的な腎臓影響を引き起こすことがある。(MSDS-OHS)

・急性摂取により、肺への誤飲で肺の損傷を引き起こし、死亡することがある。(MSDS-OHS)

特定標的臓器毒性

(反復ばく露)

：・石油炭化水素類に繰り返し暴露された労働者で視覚障害がみられた。(MSDS-OHS)

・ラットに4 週間または13 週間吸入暴露した試験で有害影響はみられなかった。(IUCLID)

・ウサギに28日間経皮投与した試験で肝臓影響がみられた。(IUCLID)
 誤えん有害性：・急性摂取により、肺への誤飲で肺の損傷を引き起こし、死亡することがある。(MSDS-OHS)

1,3,5-トリメチルベンゼンの有害性情報

急性毒性(経口)：・ラット LD₅₀ 4300mg/kg、8642mg/kg(有害性評価書)
 急性毒性(吸入:ミスト)：・ラット LC₅₀ 4800ppm/4hr(24000mg/m³/4hr)(有害性評価書)
 皮膚腐食性／刺激性：・ウサギを用いた皮膚刺激性試験で、適用6日後で発赤は中等度から重度、浮腫は消失した。(有害性評価書)
 ・ウサギでの皮膚刺激性試験で中等度の刺激性がみられた。(有害性評価書、RTECS)
 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性
 :・ウサギを用いた眼刺激性試験で軽度の刺激性がみられた。(有害性評価書、RTECS)
 皮膚感作性：情報なし
 呼吸器感作性：情報なし
 生殖細胞変異原性：・マウスに腹腔内投与し骨髄細胞を観察したin vivo 小核試験や姉妹染色分体交換試験で陰性であった。(有害性評価書)
 ・サルモネラ菌を用いたエームス試験で陰性であった。(有害性評価書、CCRIS)
 発がん性：情報なし
 生殖毒性：・妊娠後6-20日のラットに蒸気を全身吸入暴露した発生毒性試験で、300ppmで母体重量の増加や摂餌量の減少がみられ、また胎児毒性(胎児体重の減少)は600ppm以上でみられたが、胎児の死亡や催奇形性はみられなかった。(HSDB)
 特定標的臓器毒性
 (単回ばく露)
 :・マウスを用いた吸入毒性試験(蒸気)で5000～9000ppmで中枢神経系の抑制がみられた。(有害性評価書、ACGIH)
 ・ヒトが吸入すると、10ppmで末梢神経が関与する感覚変化、傾眠、気管または気管支への影響がみられた。(RTECS)
 特定標的臓器毒性
 (反復ばく露)
 :・ラットに90日間経口投与した試験で、600mg/kg/dayで血中リン含有量の上昇、肝臓や腎臓重量の増加がみられた。NOAELは200mg/kg/day(有害性評価書)
 ・ラットに4週間吸入暴露した試験で25ppm以上で中枢神経系への影響がみられた。LOAELは25ppm(有害性評価書)
 ・ウサギに5日間皮下投与した試験で、170mg/kg/dayで造血器系への影響がみられた。(有害性評価書)
 誤えん有害性：・飲み込んだ場合、誤嚥を起こし化学性肺炎を引き起こす恐れがある。(HSDB)

1,2,4-トリメチルベンゼンの有害性情報

急性毒性(経口)：・ラット LD₅₀ 3400-6000mg/kg(IUCLID、HSDB)、5g/kg(RTECS)、・マウス LD₅₀ 6900mg/kg(RTECS)
 急性毒性(経皮)：・ウサギ LD₅₀ >3160mg/kg(IUCLID、HSDB)
 急性毒性(吸入:ミスト)：・ラット LC₅₀ >2000ppm/48hr(IUCLID、HSDB)、18000mg/m³/4hr(RTECS)
 皮膚腐食性／刺激性：・ウサギを用いた皮膚刺激性試験で中等度の刺激性(EC分類では刺激性なし)であった。(IUCLID)
 ・皮膚・眼・呼吸器を刺激する。脱脂する。(HSDB)
 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性
 :・ラットを用いた眼刺激性試験でわずかに刺激性(EC分類では刺激性なし)がみられた。(IUCLID)
 ・皮膚・眼・呼吸器を刺激する。(HSDB)

皮膚感作性：・モルモットを用いた皮膚感作性試験で感作性はみられなかった。(IUCLID)

呼吸器感作性：・情報なし

生殖細胞変異原性：・ラット吸入暴露による細胞遺伝学分析で陽性であった。(IUCLID)

・マウス腹腔内投与によるin vivo 姉妹染色分体交換試験で陽性であった。(RTECS)

・サルモネラ菌及び大腸菌を用いたエームス試験で陰性であった。

(既存点検(毒性)、CCRIS)

・チャイニーズハムスター培養細胞を用いたin vitro 染色体異常試験

で陰性であった。(既存点検(毒性)、CCRIS)

発がん性：・情報なし

生殖毒性：・妊娠後6-20 日のラットに蒸気を全身吸入暴露した発生毒性試験

で、600ppm 以上で母体重量の増加や摂餌量の減少がみられ、また胎

児毒性は600ppm 以上でみられたが、胎児の死亡や催奇形性影響は

みられなかった。(HSDB)

特定標的臓器毒性

(単回ばく露)

：・短期間暴露で眼、皮膚、呼吸器を刺激する。中枢神経系に影響を起こす恐れがある。(HSDB)

・ヒトが吸入すると、10ppm で末梢神経が関与する感覚変化、傾眠、気管または気管支への影響がみられた。(RTECS)

特定標的臓器毒性

(反復ばく露)

：・10～60ppm のトリメチルベンゼン混合物蒸気に暴露された従業員で、神経質、ストレス、不安神経症、および喘息性気管支炎、さらに血液成分への影響がみられた。(HSDB、ACGIH)

・長期の反復暴露により肺に影響を引き起こす恐れがあり、慢性の気管支炎を起こす。血液や中枢神経系に影響を起こす恐れがある。(HSDB)

・ラットでの4 週間の経口投与毒性試験で、19600mg/kg で中枢神経系への影響等がみられた。(既存点検(毒性)、RTECS)

・ラットでの20 日間の吸入暴露試験で、100ppm で活動度の変化、鎮痛等がみられた。(RTECS)

誤えん有害性：・飲み込んだ場合、誤嚥を起こし化学性肺炎を引き起こす恐れがある。(HSDB)

キシレンの有害性情報

急性毒性(経口)：・ラット LD50 3500～8640mg/kg、マウス LD50 5300mg/kg、5600mg/kg (初期リスク評価書)

急性毒性(経皮)：・ウサギ LD50 >114mg/kg (初期リスク評価書)、4300mg/kg(ACGIH)

急性毒性(吸入:蒸気)：・ラット LC50 6400～6700ppm/4hr (27.6～29mg/L/4hr) (初期リスク評価書)

皮膚腐食性／刺激性：・マウス、モルモット、ウサギを用いた皮膚刺激性試験で中等度から強度の刺激性がみられた。(初期リスク評価書)

・モルモットやウサギに単回適用した皮膚刺激性試験で紅斑と浮腫がみられ、その後、落屑と壊死が発生した。(初期リスク評価書)

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

：・ウサギを用いた眼刺激性試験で軽度の結膜刺激性と軽微な角膜の壊死による不快と間代性眼瞼痙攣がみられた。(初期リスク評価書)

・ウサギの眼に適用した試験で軽度から中等度の刺激性がみられた。

(初期リスク評価書)

皮膚感作性：・ボランティア24 人に行った実験で皮膚感作性はみられなかった。(初期リスク評価書)

呼吸器感作性：情報なし

生殖細胞変異原性：・マウスに腹腔内投与したin vivo 小核試験で陰性であった。(初期リスク評価書)

・ラットに9～18 週間吸入暴露した試験で染色体異常を誘発しなかった。(初期リスク評価書)

・サルモネラ菌や大腸菌を用いたエームス試験で陰性であった。(初期リスク評価書)

・ヒトリンパ球やCHO 細胞を用いた染色体異常試験及び姉妹染色分体交換試験で陰性であった。(初期リスク評価書)

発がん性：・IARC の発がん性分類:グループ3(ヒトに対する発がん性については分類できない)

・ACGIH の発がん性分類(ジメチルベンゼン):A4(ヒトに対して発がん性が分類できない物質)

生殖毒性：・妊娠6～15 日のマウスに経口投与した試験で、2.06g/kg/日以上 of 胎児に口蓋裂等の奇形増加を認めた。(初期リスク評価書)

・妊娠4～20 日のラットに吸入暴露(濃度:870mg/m³)した試験で、胎児に上顎骨の骨化遅延、出生児では運動能力に障害が認められた。(初期リスク評価書)

・妊娠1～21 日のラットに吸入暴露した試験で、50mg/m³ 以上で胎児に吸収胚増加や骨化遅延、骨格変異増加、500mg/m³ で血腫、小眼、水頭症がみられた。(初期リスク評価書)

特定標的臓器毒性

(単回ばく露)

：・ラットへの経口投与で中枢神経毒性が観察され、約6000mg/kg 以上で鈍麻、知覚まひ、昏睡、死亡がみられた。(初期リスク評価書)

・マウス、ラット及びモルモットへの暴露で呼吸数減少、呼吸器の刺激、肺の浮腫や出血、肺の炎症等がみられた。(初期リスク評価書)

・キシレン約10000ppm に数時間暴露されたヒトで、重度の肺うっ血、肺浮腫、肝臓の腫大を伴う鬱血、肝臓障害、重度の腎障害、記憶喪失がみられた。(初期リスク評価書)

・ヒトが自殺目的でキシレンを静注した結果、10 分後に重度の呼吸障害がみられた。(初期リスク評価書)

特定標的臓器毒性

(反復ばく露)

：・1.5～18 年暴露されたヒトで、慢性頭痛、胸部痛、脳波の異常、呼吸困難、手のチアノーゼ、白血球数減少、肺機能低下、及び精神障害等がみられた。(初期リスク評価書)

・職場でキシレンに慢性的に暴露された結果、努力呼吸、肺機能障害がみられた。(初期リスク評価書)

・平均21ppmに7 年間暴露された労働者に、眼、鼻、喉の刺激と中枢神経系の自覚症状(不安、物忘れ、注意力散漫)がみられた。(環境省リスク評価)

誤えん有害性：・o-、m-、p-キシレンは、それぞれ飲み込むと誤嚥により化学性肺炎を起こす危険性がある。(ICSC)

エチルベンゼンの有害性情報

急性毒性(経口)：・ラット LD50 3500～4700mg/kg (初期リスク評価書)

急性毒性(経皮)：・ウサギ LD50 15400mg/kg (初期リスク評価書)

急性毒性(吸入:蒸気)：・ラット LC50 4000ppm/4hr (17.2mg/L/4hr) (初期リスク評価書)

皮膚腐食性/刺激性：・ウサギを用いた皮膚刺激性試験で軽度の刺激性であった。(初期リスク評価書)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

：・ウサギを用いた眼刺激性試験で角膜に軽度の刺激性がみられ、角膜には影響はなかった。別の試験では軽度の刺激性がみられた。(初

期リスク評価書)

皮膚感作性：・ヒトに適用した皮膚感作性試験で陰性であった。(SIDS)

呼吸器感作性：情報なし

生殖細胞変異原性：・マウスに吸入暴露及び腹腔内投与(骨髄赤血球を観察)したin vivo 小核試験で陰性であった。(初期リスク評価書)

・サルモネラ菌及び大腸菌を用いたエームズ試験で陰性であった。(初期リスク評価書)

・CHO 細胞を用いた染色体異常試験で陰性であった。(初期リスク評価書)

発がん性：・IARC グループ2B(ヒトに対して発がん性の可能性のある物質)

・ACGIH A3(ヒトへの関連性は不明であるが、動物実験で発がん性が確認された物質)

生殖毒性：・妊娠6～15 日のラットに吸入暴露した試験で、500mg/m³ 群で児の骨格形成遅延、尿路系の異常発生率の増加がみられた。(初期リスク評価書)

・妊娠6-15 日のラットに吸入暴露させた試験で、600mg/m³ 以上の群で胚吸収率の増加、児の骨格形成遅延がみられ、2400mg/m³ 群で児に過剰肋骨の増加等がみられた。(初期リスク評価書)

特定標的臓器毒性

(単回ばく露)

：・マウスを用いた吸入暴露試験(1430～8000ppm)で、流涙、呼吸数減少、中枢神経系への影響が見られた。(初期リスク評価書)

・ヒトの暴露例で2000ppm で、眼、鼻の痛み、胸の狭窄感、めまいがみられた。(ACGIH)

特定標的臓器毒性

(反復ばく露)

：・ラットに6 ヶ月間経口投与した毒性試験で408mg/kg/日以上以上の群で肝細胞と上皮細胞の混濁腫脹がみられた。(初期リスク評価書)

・マウスに103 週間吸入暴露した試験で75ppm で肝臓に合胞体細胞増加がみられ、750ppm では甲状腺ろ胞細胞の毛形成、肺胞上皮細胞の化生、肝細胞肥大の出現増加等がみられた。LOAEL は75ppm。(初期リスク評価書)

誤えん有害性：・誤嚥により化学性肺炎を起こす危険がある。(ICSC)

12. 環境影響情報

製品の環境影響情報

混合物の環境影響情報：全ての項目について情報なし

オクチル酸コバルトの環境影響情報

環境影響情報：全ての項目について情報なし

ミネラルスピリットの環境影響情報

生態毒性：・魚類(ファットヘッドミノー) LC50(96hr) 45mg/L (IUCLID)

・魚類(ニジマス) LL50(96hr) 25mg/L (IUCLID)

・魚類(ブラグフィッシュ) NOEC(128day) 1mg/L (IUCLID)

・甲殻類(オオミジンコ) EL50(48hr) 1.4mg/L (IUCLID)

・甲殻類(ミジンコ) NOEC(21day) 5.2%WSF (IUCLID)

・藻類(セレンastram) IL50(72hr) 8.3mg/L (IUCLID)

残留性/分解性：・情報なし

生体蓄積性：・BCF:130～159(ブラグフィッシュとその卵)(IUCLID)

・BCF:61～115(ニジマスの卵)(IUCLID)

土壌中の移動性：・情報なし

オゾン層への有害性：・情報なし

1,3,5-トリメチルベンゼンの環境影響情報

生態毒性：・甲殻類(オオミジンコ) EC50(48hr) 6mg/L、NOEC(21day)

0.4mg/L(有害性評価書、環境省リスク評価書)

- ・甲殻類(ブラインシュリンプル) LC50(24hr) 14.2mg/L(有害性評価書、環境省リスク評価書)
- ・藻類(緑藻類) ErC50(48hr) 53mg/L(有害性評価書、環境省リスク評価書)
- ・魚類(金魚) LC50(96hr) 12.5mg/L(既存点検、環境省リスク評価書、有害性評価書)
- 残留性／分解性：・4 週間の生分解性試験で難分解性と判定された。(既存点検、環境省リスク評価書、有害性評価書)
- 生体蓄積性：・10 週間の濃縮性試験で濃縮性がないまたは低いと判定された。(既存点検、環境省リスク評価書、有害性評価書)
- ・BCF=23～342(コイ)(既存点検、環境省リスク評価書、有害性評価書)
- 土壌中の移動性：情報なし
- オゾン層への有害性：情報なし

1,2,4-トリメチルベンゼンの環境影響情報

- 生態毒性：・魚類(ニジマス) LC50 9.22mg/L (IUCLID)
- ・甲殻類(オオミジンコ) EC50(48hr) 約6.14mg/L (IUCLID)
- 残留性／分解性：・4 週間の生分解性試験で難分解性と判定された。(既存点検)
- 生体蓄積性：・8 週間の濃縮性試験で濃縮性がないまたは低いと判定された。(既存点検)
- ・BCF=33～275(ヒメダカ)(既存点検)
- 土壌中の移動性：・情報なし
- オゾン層への有害性：・情報なし

キシレンの環境影響情報

- 生態毒性：・魚類(ファットヘッドミノー) LC50(96hr) 26.7mg/L (初期リスク評価書)
- ・魚類(ニジマス) LC50(96hr) 3.3mg/L (初期リスク評価書)
- ・甲殻類(オオミジンコ) EC50(24hr) 75mg/L (初期リスク評価書)
- ・藻類(セテナストラム) ErC50(14day) 72mg/L、NOErC(24～72hr) 9.2mg/L (初期リスク評価書)
- 残留性／分解性：・2 週間の生分解性試験(3 種の異性体の等量混合物を使用)でBOD 分解率は39%であった。(初期リスク評価書)
- 生体蓄積性：・BCF=6.2～21(環境省リスク評価)
- ・オクタノール/水分配係数 Log Pow=3.12～3.20(測定値:各異性体)(初期リスク評価書)
- 土壌中の移動性：・土壌吸着係数 Koc=39～2600(測定値)(初期リスク評価書)
- オゾン層への有害性：情報なし

エチルベンゼンの環境影響情報

- 生態毒性：・魚類(ニジマス) LC50(96hr) 4.2mg/L (初期リスク評価書)
- ・魚類(ファットヘッドミノー) LC50(96hr) 12.1mg/L (初期リスク評価書)
- ・甲殻類(オオミジンコ) LC50(48hr) 1.8～2.9mg/L (初期リスク評価書)
- ・藻類(緑藻類) EC50(72hr) 4.6mg/L (初期リスク評価書)
- 残留性／分解性：・化審法に基づく4 週間の生分解試験で、分解率100%(HPLC 法)で良分解性と判定された。(既存点検)
- 生体蓄積性：・オクタノール/水分配係数:logPow=3.15 (測定値) (初期リスク評価書)
- 土壌中の移動性：・土壌吸着係数: Koc=164 (初期リスク評価書)
- オゾン層への有害性：情報なし

13. 廃棄上の注意

- 産業廃棄物業者として許可を受けた専門業者に委託する。
- 製品や、容器、機械装置等を洗浄した排液等を、地面や排水溝へ流さないこと。

14. 輸送上の注意

注意事項

- 取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
- 容器の漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制

陸上輸送： 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法による。

海上輸送： 船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送： 航空法に定められている運送方法に従う。

国連分類： クラス3

国連番号： 1993

15. 適用法令

消防法： 第4類第2石油類(非水溶性) 危険等級Ⅲ

毒物及び劇物取締法： 該当しない

労働安全衛生法 通知物質57条2(通知対象物)：

オクチル酸コバルト	政令番号172(0.1%以上)
ミネラルスピリット	政令番号551(1%以上)
キシレン	政令番号136(0.1%以上)
エチルベンゼン	政令番号70(0.1%以上)
1,3,5-トリメチルベンゼン	政令番号404(1%以上)
1,2,4-トリメチルベンゼン	政令番号404(1%以上)

施行令第18条 名称を表示すべき有害物：

オクチル酸コバルト	政令番号172(0.1%以上)
ミネラルスピリット	政令番号551(1%以上)
キシレン	政令番号136(0.3%以上)
エチルベンゼン	政令番号70(0.1%以上)
1,3,5-トリメチルベンゼン	政令番号404(1%以上)
1,2,4-トリメチルベンゼン	政令番号404(1%以上)

有機溶剤中毒予防規則：ミネラルスピリット

第3種有機溶剤等

化学物質排出把握管理促進法：

オクチル酸コバルト	第1種No.132
キシレン	第1種No.80
1,3,5-トリメチルベンゼン	第1種No.297
1,2,4-トリメチルベンゼン	第1種No.296

化審法：

キシレン	優先評価物質125
エチルベンゼン	優先評価物質50
1,3,5-トリメチルベンゼン	優先評価物質201
1,2,4-トリメチルベンゼン	優先評価物質49

16. その他の情報

注意事項：

本データは、工業的な一般的取扱いに際しての、安全な取扱いについて最新の情報を集め、記載したものです。必ずしも充分とはいえないので取扱いには充分注意して下さい。

新たな情報を入手した場合は、追加または改訂されることがあります。

本製品の取扱いに記載されている以外の他の化学物質を混ぜたり、特殊な条件で使用するときは、ユーザーが安全性の評価を実施してください。

参考文献

- 1)GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場の表示及び安全データシート(SDS):JIS Z 7253:2012)
- 2)GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- 3)原材料／製品メーカーSDS